

会社概要
設立 1999年12月
売上高 5億6000万円
(2007年3月期)
経常利益 760万円(同)
社員数 10人
(2007年12月末時点)

新進 気鋭

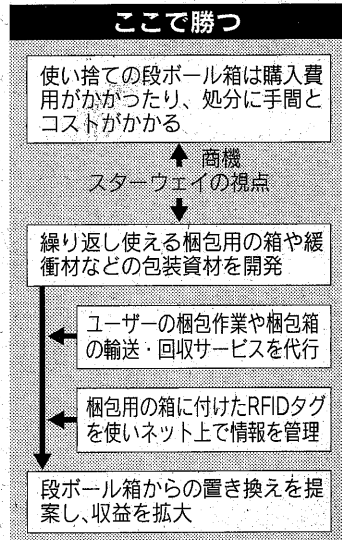
製品や部品を運んだ後の段ボール箱は繰り返し使われることが少ない。不要になった段ボール箱や緩衝材などの梱包資材は大半が廃棄されているのが現状だ。環境ベンチャーのスターウェイ

スターウェイ 何度も使える梱包材

高コスト、レンタルで解決

エイ(東京・港)は繰り返し使える梱包資材を開発。何度も使える利点を生かしたビジネスモデルを構築した。廃棄量を抑制する環境配慮に加え、顧客企業の物流コスト削減にも一役買っている。

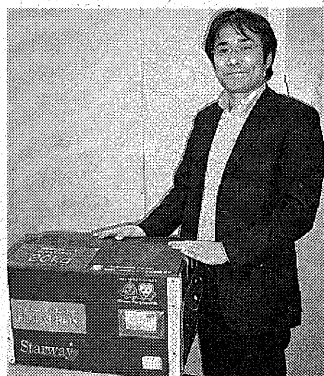
同社が開発した段ボール箱は古紙を圧縮し強度を高めて、「百回程度繰り返し使えるようにした」(竹本直文社長)のが特長。製品の衝撃を抑える緩衝材は従来の発泡スチロールを使用せず、伸縮性のあるフィルムを張った特殊な板紙で中



の製品を積み込んで保護する。その大きな壁となっていた。同社が、コストが普通の箱を販売するという考えを捨て、繰り返し使える利

た。同社の梱包箱も一般の段ボール箱の価格の二十倍近くもするため「ほとんど採用されなかった」(同)。同社の梱包箱も一般の段ボール箱の価格の二十倍近くもするため「ほとんど採用されなかった」(同)。同社の梱包箱も一般の段ボール箱の価格の二十倍近くもため

点を生かしたサービスを提案する。顧客に梱包材を貸し出し、使用後は同社が回収して再利用する仕組みだ。企業にとっては梱包材の購入費が不要になるほか、一般の段ボール箱のときのような処分に費やす手間もコストもかからない。梱包材関連費用は物流コスト全体の二割近くを占めるとされる。梱包材の提供



と回収するを開始した〇二年度は三サービスを展開する。現在、紙の段ボールを輸送する電機・精密機械メーカーが中心だ。同社の売上高も〇五年度、〇六年度と続けて前の年度と比べ二倍の伸びを達成した。

(白山雅弘)